



98名の医学士誕生

第79回卒業式



平成十九年度卒業式、大阪大学卒業式が三月二十四日午後一時より大阪大学吹田地区体育館にて行われた。鷺田清一総長は挨拶の中で、最近の高度サーヴィス社会の現状に触れられ、食事、教育、衛生など様々な領域が進歩した我々の社会は安心で便利ではあるが、その反面、自らの手で単なるサーヴィスの受益者となってしまう可能性を懸念され、本学卒業生には市民社会のリーダーとしての役をすすんで引き受けていっていただきたいと、激励の言葉をかけられた。

また、その卒業式にともなう医学部医学科卒業式が同日午後三時半より医学部A講堂にて行われ、本年度は九十八名の新医学士が誕生した。式においては遠山正彌医学部長より一人一人に学位が授与された。医学部長は挨拶の中で「志を立てて万事の源となす」と吉田松陰の言葉を引用され、何事も志を大切に、長期的な視野に立って、これからの進路を進めて欲しいと励まされた。また、必

第220号
社団法人 興銀杏会
06(6879)3501
(編集同人)
川越裕也 秋原俊男
大湊茂 門田守人
米田正太郎 杉本尚長
武田雅俊 黒木尚
山分祥興

定期総会案内

開催日 平成二十年五月三十一日(土)
開催場所 大阪大学医学部銀杏会館
評議員会 正午～午後一時三十分
支部長会 (三階大会議室)
総会 午後二時三十分～二時三十分
(三階阪急・三和ホール)

特別講演 テーマ「メタボリックシンドロームと脂肪細胞」

演者 住友病院院長・松澤佑次先生
懇親会 午後四時三十分より
(二階レストラン・ミネルビ)

（役員の方は協力を）
お返送にご協力ください。
お申し込みは、お願います。
お申し込みは、お願います。
お申し込みは、お願います。

修研修勤務のあとと大阪大学総長として迎えた医学に戻り、良い医師、良学生を今社会に送り出すこの研究者に、よく研鑽を、とに喜びを感じているとの積んで欲しいと述べられた。

続いて林紀夫病院長より「お祝いの言葉がかけられ、病院長は社会の中で必要な予算が割り当てられていない現代の医療環境は厳しいものであるが、短期的な視野に立たず懸命に頑張った卒業式を終了した。平成十九年度「楠本賞」は木村康義君にその栄誉が贈られた。平成十九年度の教育を受けてきた本学卒業生には日本や世界の医療をリードする人材として活躍してほしいと激励された。また平成十九年度、岸本忠三医学振興銀杏博士課程優秀者として十三名、その栄誉が授与された。

話題

「変わり化ける」と書いて「変化」。変化は様々なものに訪れる。アメリカでは、初の黒人大統領または初の女性大統領が選出されるかもしれない。面白い変化だ。日本でも変化が起きている。昔から政治家に無垢な経歴が求められた。が、猥褻罪等で人生の底まで転落したそのまんま東が、九六〇という輝かしい支持率を誇る東国原宮崎県知事に一転した。日本が変化を渴望しているからだ。

変化を求めて

私は約十六年前に、マレーシアから渡日した。その頃と比べ、現在の日本は不景気等の暗い面が多い。こんな日本に嫌気がさしている日本人も多いだろう。ここで終戦後の日本を思い出し、こころを振り替えてみる。日本はそんな窮乏から這い上がり、世界有数の経済大国となった。これこそ、日本人が優秀な人種である確固たる証拠だと私は信じている。が、その優れた力の導出に、ハングリーな環境という起爆剤は必要不可欠だ。現代の日本は物質的な富裕により、その起爆剤は不活性化されていた。でも、今の日本はハングリーになりつつある。国際社会の舞台にも、中国等新興国家の台頭によって日本は徐々に窮境に追い込まれている。しかし、窮境こそ変化のチャンス、ハングリー精神をたぎらせるチャンスなのだ。「どげんかせんといかん」という言葉の流行が、現在の日本を抱えるハングリー精神を体現している。私はこれから「変わり化けていく」日本に大いに期待している。

山分ネロン祥興 (Thang Siang Heng) (平17)

医学系研究科長就任の挨拶

平野俊夫 (昭47)



思いであります。

大阪大学医学部は、我が国はもろろん、世界の医学界に中心的な役割を果たしてきました。医学部の長い歴史の間に、多くの医学・生命科学の指導者や優れた医学人を輩出するとともに、卓越した医師を世の中に送り出してきました。このような栄光に満ちた阪大医学部の長い歴史のなかで、我々は現在、一つの歴史的な転換点に立っていると思います。医学・医療をとりまく急激な社会的環境の變化、そして迫り来る団塊の世代の大量定年問題など、我々

問題解決の原則であると考えます。いまこそ、基本にもどり、医学部、医学系研究科の将来を、中長期的な視野で見つめ直す必要があると思えます。

阪大医学部は「日本だけでなく世界の医学界のリーダーたるべきである」という高い志と、「大学は学問と教育の府である」という理念に基づき、教育、研究、医療が三位一体となり、さらなる飛躍をはかれる基礎を築こうと考えています。医学部構成員全員が発展に向けて全力をあげて参る覚悟でございます。

は逆風にさらされているのが現状です。今一度阪大医学部を真摯な態度で見つめ直す必要があると思えます。難問を解決するにあたり魔法のようなことはあるはずもありません。どのような分野におきましても、急激な変化に直面し

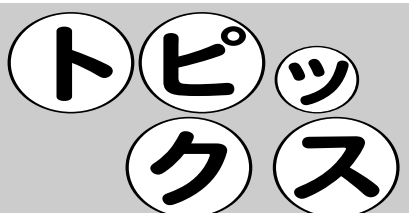
「大学は学問と教育の府である」、アカデミズムを追求することこそが、我々大学人に課せられた使命であるという理念のもと、臨床医学と基礎医学の両輪をバランスよく、かつ高いレベルに保つことこそが医学部の基本であると考えます。やがてに医学教育、研究、医療の三者を、アカデミズムの追求という大学本来の原則のうえに高度にバランスよく保つことが重要だと思えます。

学友会の会員の先生方にはますます御清栄で御活躍のことと心よりお喜び申し上げます。私は平成二十年四月一日付で大阪大学大学院医学系研究科長・医学部長に就任いたしました。大麥光栄でありますとともに身の引き締まる

現在日本のほとんどの施設で分娩中、分娩監視装置で胎児心拍連続モニタリングが用いられている。一八六二年、英国の整形外科医William Littleは脳性麻痺の発生の原因は分娩の過程にある、という説を発表した。その後、聴診器によ

胎児心音聴取により、分娩中に死亡する胎児の心拍数は死亡前に極端に低下することから、胎児心拍数を連続的に記載すれば子宮内の低酸素状態がわかり、軽症の間帝王胎児の徐脈に生理的なものと病的なものがあることを発表できたという考え方が生じた。その後、超音波ドップラーによる心拍測定、圧トラスデュースによる子宮収縮との同時記録により、現在の形となった。

以後、間歇的な胎児心拍数の評価は不正確という大前提のもと、分娩監視装置は分娩と両者で変わらず、分娩監視装置の使用は新生児瘻瘻の発生を下げたが、神経学的予後は変わらず、機械分娩・帝王死亡率などの成績は劇的に改善し、人々はこの改善を分娩



胎児心拍連続モニタリングの50年目の評価

胎児心拍数を連続的に記載すれば子宮内の低酸素状態がわかり、軽症の間帝王胎児の徐脈に生理的なものと病的なものがあることを発表できたという考え方が生じた。その後、超音波ドップラーによる心拍測定、圧トラスデュースによる子宮収縮との同時記録により、現在の形となった。

当初、そんなはずはない、分娩監視装置のほうが正確だという議論が巻き起り、また訴訟現場で脳性麻痺の原因はモニターの異常パターンの見落としてある、という司法判断が相次いだ。モニター上全満期産分娩八〇％に何らかの異常が出現し、測定者間誤差三〇％、測定者内誤差二〇％などの特性が明らかになった。二〇〇七年Cochrane Databaseは十二論文のメタアナリシスで低リスク妊

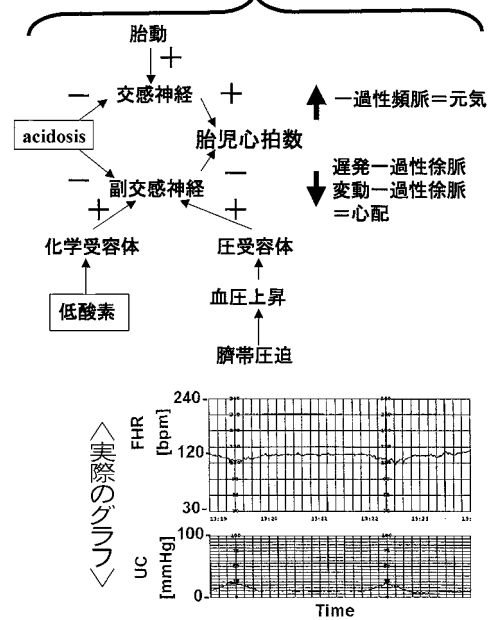
婦、高リスク妊婦、早産においても分娩監視装置の間歇聴診に対する優位性は認められない、と結論した。だが、間歇聴診の方が人手と手間がかかり、我々は分娩監視装置を捨てることができない。産科医が真面目にモニターすれば胎児の状態はわかり、脳性麻痺は防げるという神話がまかり通り、それが訴訟の増加の背景となった。

この半世紀、電子技術や生体モニター法は長足の進歩を遂げている。胎児の脳中酸素濃度や、pH、乳酸などの情報を直接連続して分娩中に母体腹壁から得ることができたのだろうか？ 我々は心拍数をモニターと根底から異なる発想を求めている。生理学・工学領域にくだしい学友会諸兄にぜひよいお知恵を拝借いたした。

産科学婦人科学

木村 正(昭60)

胎児心拍数をめぐる原理
交感神経・副交感神経説
(50年の歴史)



危険な低酸素、acidosisが胎児心拍数に及ぼす影響
=今は多段階反射を介した不確実なグラフを解釈する必要
胎児脳における低酸素、acidosisの直接モニターこそ産科の明日を作る？

提 言

KYは昨年の新語・流行語大賞にノミネートされた言葉の一つである。KYと呼んで人を非難し、さげすむ時に用い、極端な場合は「いじめ」になったりもする。確かに、その場の「空気」が読めない人の存在は周囲の人間の気持ちに乱す。そこで「空気が読めない」という批判になる。

評論家でクリスチャンでもある山本七平は、著書『空気の研究』の中で、太平洋戦争末期に戦艦大和を沖縄

に向けて単艦で出撃させた作戦は誰の目にも無謀な作戦であったにもかかわらず、当時の「空気」よりして、大和の特攻出撃は当然であったとされたことと触れ「大和の出撃を無謀とする人々にはすべて、それを無謀と断ずるに

常、論理的判断基準と、空気の判断基準の一種ダブルスタンダードのもとに生きていくわけである。そして通常、口にするのは論理的判断の基準だが、本当の判断の基準となつているのは「空気が許さ

KY(空気読まない)の勧め

至る細かいデータ、すなわち明確な根拠がない」という空気の判断の基準である。だが一方、当然とする方の主張はそついったデータ乃至根拠は全く無く、その正当性の根拠は専ら「空気」なのである。従って「でも、

あらかゆる議論は最後には「空気が」で決められる。：我々は

OECD参加国の人口千人あたりの平均医師数が3人に対して我が国では、わずか2人である。今、若い学生たちの間にKYという単語が深く浸透しているということも、政府は医師が浸透しているということも、戦後六十余年の成長しなかったということ

に近いうちに、逆現象は、国政から学内に至るまであらゆるところで起きつつある。日本人の行動を支配するのは自然発生的にしろ、人工的にしろ「空気」であって自分達の意思ではないということである。重要な会議で方針を決

めたのは議長でも委員でもな

ておらず、逆現象は、国政から学内に至るまであらゆるところで起きつつある。日本人の行動を支配するのは自然発生的にしろ、人工的にしろ「空気」であって自分達の意思ではないということである。重要な会議で方針を決め

めたのは議長でも委員でもな

門田守人(昭45)



…その121

大学の先輩に誘われて医師会の手伝いをしたのがきっかけで、今や医師会に抜き差しならぬ状態にはまり込んでしまった感じです。

大阪府知事、大阪市長以下、行政の方々と話し合いや、様々な学会からの要望や委託事業の折衝も大きな任務に

張っていますが、出張があるし、それが唯一の休息と楽しみです。経済界は、いまだ市場原理が幅をきかせ、経済財政再建

ますが、選挙という大きな障壁があるので、表立っては庶民の味方を装っています。医師会も入り込めば入り込むほど、権力闘争とあからさまなエゴが見えてきます。医

師会が担う責務を達成すべく、日々邁進しています。次回は、大阪府救急医療情報センター顧問、杉田隆博氏(昭42)にお願いしました。

大学を卒業して、この春で私たち仲間はずうと四十年になります。つい一昨年までは一人の物故者もなく、他のクラスに自慢を

大阪府医師会会長を務められた植松治雄・前会長が

医師会にかかわって

のたけには何と

師会対医師会、医師会対行政、医師会対政治家、専門科対専門科、病院対診療所、勤務医

対開業医など、対立軸は無数にありま

ていましたが、とうとう三人の友を亡くしてしまいました。

日本医師会長に就任されたたりました。

一年間の挨拶の数は、一年の日数よりも多いようです。

は医療費の抑制のことばかり考えています。医療にも競争があ

が、格差があつて当然と考

ています。医師会はもともとと學術団体として発足したのですが、中々それはかりではやってい

私は大阪市城東区で開業して二十五年になります

はじめ全国の医師会との会合もどつと増え、国会議員をは

苦手の講演は、平均すると月の数くらいですが、準備に多

大な時間を要します。診察の

れ、ほぼ同じような考えを持つている方が多いように思

大阪府医師会会長 酒井國男(昭43)

が、開業して早々に、地区

はじめとして、与党・野党を問

方も午前中は今までどおり頑

つて

術の成績と病床稼働率に一喜

一憂し、学会発表締切りにやきもきした日が懐かしくなります。